



道の駅
よこはま菜の花プラザ
Yokohama Nanohana-plaza

道の駅よこはまエリア地方創生拠点形成 H30年度取組状況及びH31取組予定

資料 1



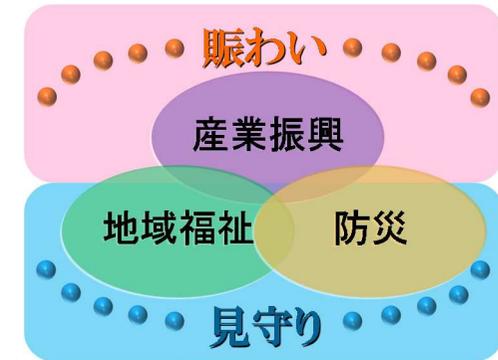
平成31年3月18日
横浜町・青森県

道の駅よこはまエリア
地方創生拠点完成イメージ

道の駅「よこはま」エリア地方創生基本計画の概要

- 道の駅「よこはま」を含む周辺エリアを地域資源として捉え、“**賑わい**”と“**見守り**”を基本コンセプトとする「**産業振興**」+「**地域福祉**」+「**防災**」の3機能を有する「**地方創生拠点の形成**」を目指す。
- 横浜ICと道の駅「よこはま」エリアとの連携**により、**下北半島縦貫道路の休憩・情報施設**としての活用を図る。

※道の駅「よこはま」エリア・・・小中学校やガソリンスタンド、コンビニエンスストアなどの施設が集積する道の駅を含めたエリア。既存施設の有効活用が可能。



“賑わい”と“見守り”を基本コンセプトとして、3機能を有する「地方創生拠点」の形成

賑わい

産業振興「道の駅」 ⇒交流人口の拡大・地域経済の活性化

- ①地域間や産官学と連携した観光企画の強化
- ②買物や休憩、憩いで賑わう空間づくり
- ③地域の特産品によるオリジナル商品開発・ブランド化
- ④集荷サービス等による直売所の充実



地域福祉「道の駅」 ⇒安全・安心な住民サービスの提供

- ⑤高齢者など住民への宅配サービス
 - ⑥道の駅への送迎サービス
- 【集荷・宅配サービスと同時に見守り・声かけの効果も】



見守り

防災「道の駅」 ⇒地域防災力の強化（広域防災の後方支援）

- ⑦災害時の受け入れ体制づくり
- ⑧防災訓練やPR活動を通じた住民の防災意識の醸成



施策① 観光企画の強化

取組の方向性

駐車場の拡張により大型車両が立ち寄りやすくなる契機を活かし、観光客や来訪者を増やす企画提案や受け入れ体制づくりを行う。

計画の内容

- ・ 観光ルート、観光企画の提案
- ・ 産官学と連携した観光素材発掘（横浜町ファンづくり）
- ・ 受入れ体制の充実
- ・ レストランの魅カアップのために加工グループとコラボ



最終目標年度：H32年度
現在の達成度 75%

○今年度の取り組み

○観光ルート、観光企画の提案

- ・ 上十三・十和田湖広域定住自立圏観光推進協議会のパンフレット作製<H29~継続>

5つのコースの広域観光ルートを提案したパンフレットを作成し、広域に配布。

- ・ しもきたTABIあしすとの下北半島旅ガイド「ぐるりんしもきた」による観光情報提供とバスツアー実施<継続>

横浜町を含む下北の市町村の観光情報盛りだくさんの旅ガイドブックの配布及び1日周遊コース（5コース）のバスツアーを実施。

○受入れ体制の充実

- ・ 電子看板を活用したPR実施<H30新規>

町及び道の駅のイベントの事前PR及び施設や産業のPRを動画や静止画にて、町内外から道の駅を訪れる来客に広報を実施。



電子看板を活用し
イベントをPR

○レストランの魅カアップ

- ・ 横浜なまこフェアの開催（12/1~12/16）<継続>
「横浜なまこ」の真のおいしさを知っていただくため、なまこ丼、茶漬け、三趣盛、なまこ御膳等を提供。



- ・ ホタテフェアの開催（3/2~3/10）<H30新規>

冬期の誘客対策とホタテの産地PRとして、ホタテフェアを開催。ホタテ刺身定食や酒蒸し等限定メニューのほか、既存のホタテメニューを100円引きで提供。

▲（左から）なまこ御膳、ホタテ刺身、酒蒸し、ホタテ刺身定食

○来年度の取り組み予定

- ・ 函館アフターデスティネーションキャンペーン実施<継続>
- ・ 上十三・十和田湖広域定住自立圏観光推進協議会パンフレット作製配布<継続>
- ・ 県内外での外販での商品及び道の駅PR<継続>
- ・ 電子看板を活用したPR実施<継続>
- ・ 冬期のイベント企画の実施<継続>
- ・ 多言語に対応した小型翻訳機の導入<新規>

取組の方向性

道の駅と三保野公園、交流館を活用し、ゆっくりと滞在できる環境を整備し、道路利用者や地域の方々に賑う空間を創出する。

計画の内容

- 三保野公園や交流館の利活用
- 高齢者をはじめ来訪者が休憩できる空間づくり
- イベントや催事などの企画の充実
- レストランの魅力アップ【再掲】



最終目標年度：H32年度
現在の達成度 75%

○今年度の取り組み

○三保野公園や町の施設の利活用

- **道の駅周辺案内看板の設置<H30新規>**
ドライブの疲れを癒してくれるスポットである三保野公園や、よこはま温泉へのアクセス等を案内する看板を道の駅敷地に設置。

左側が周辺案内看板▶



• 青森県内道の駅フェアへの参加・視察<H30新規>

道の駅もりたで開催の県内の道の駅フェアに参加し、物販を通して、今後当道の駅で開催する際の参考のため、イベントの運営・開催方法を視察。

H30県内道の駅フェア▶
道の駅もりたでの開催



○来訪者が休憩できる空間づくり

- **道の駅エントランスに花のプランターを設置<H30新規>**
町商工会女性部と菜の花会がボランティアで、プランターに花を寄せ植えしエントランスに設置し、来訪者へ安らぎを与える環境づくり。

○イベントや催事などの企画の充実

- **道の駅で、加工団体が交代で毎月イベントの継続開催<H29～継続>**



(左) バレンタインフェア (中央) もちつき (右) ひなまつりフェア

• 館鼻岸壁朝市（八戸）や、産直施設を視察研修<H30新規>

県内で一番の集客がありにぎわう市場では、販売・声掛け・陳列の仕方や、行列する商品等について、また、他産直施設においても工夫している点に注意を払いながら視察し、今後、自分たちの売り場等に生かせるようにする。



▲館鼻岸壁朝市（八戸市）

○来年度の取り組み予定

- 毎月イベントの継続開催（継続）
- 道の駅の花壇の再生（新規）
- 青森県内道の駅フェア&道の駅20周年イベント開催（新規）
- 道の駅ふたつ（秋田県）との商品交流（継続新規）
- 設置しやすいイベントテントの購入（新規）

施策③ 特産品による商品開発・ブランド化

取組の方向性

これまでの開発した商品のPR活用と、専門家や地域と連携した「地元の食材を活かした商品開発・ブランド化」を推進する。

計画の内容

- 魅力ある商品開発（6次産業化の強化）
- PRや売り場の工夫・改善



最終目標年度：H32年度
現在の達成度 75%

○今年度の取り組み

○魅力ある商品開発（6次産業化の強化）

- 商品ラベルプリンター導入<H30新規>
商品ラベルのロットを大量に抱えず、いろいろ試してラベル作成が可能なプリンターを道の駅に導入。



▲ラベルプリンター

○PRや売り場の工夫・改善

- 売り場を季節感あるディスプレイで飾る手作り講習会の開催<H30新規>



◀ミニイベント時のディスプレイ



手作り講習会▶



▲インターン学生による加工グループからの聞き取り調査

- 既存商品のブラッシュアップ<H29～継続>
容器、ラベル、パッケージ等をより消費者が手に取りやすいものへ検討し変更。
- 地元子供たちの絵をもとに新商品開発<H29～継続>

直売所の売り場環境づくりで書いていただいた小学生の絵をもとに、新商品につながる試作品を製作。そのうち、2品が実際に販売。

東奥日報3/2掲載▶



- インターンの大学生による特産物加工品に関するガイドブック作成<H30新規>

道の駅の売り場や町外での物販の際に、関係者すべての人が、加工品の良さやこだわりの知識を共有し、お客様に伝えることができるような内容を記載したガイドブックを、大学生に取りまとめし作成いただいた。



完成したガイドブック

○来年度の取り組み予定

- 導入したラベルプリンターを利用し、さらに町特産品をPRできるラベルの作成<継続>
- 季節感あるディスプレイによる売り場づくり<継続>
- 商品化技術研修の開催<新規>

施策④ 直売所の充実（地産地消）

取組の方向性

道の駅の目玉「産直」の扱う品目と品揃えを充実し、来客数増加と地域産業の活性化を図る。

計画の内容

- 売り場の工夫・改善【再掲】
- 集荷サービスの提供



最終目標年度：H32年度
現在の達成度 90%

○今年度の取り組み

○集荷サービスの提供＜H28～継続＞

産直とわだから仕入れた野菜の売り場▶

- 「(株)よこはまロマン創社」へサービス業務を委託。
- 道の駅職員がぐるっと隊として、リース車両を使用し、道の駅 営業日全日にてサービス提供。
- 集荷宅配サービス専用車（軽自動車）を導入。
- サービス専用携帯電話の導入。



導入したサービス▶
専用車両

○売り場の工夫・改善

- 野菜の種類ごとの陳列及び清潔な売り場づくり＜H29～継続＞
- 道の駅に来る環境づくり（絵画の展示）【再掲】＜H29～継続＞
- 売り場づくり等に関して専門家による教示。＜H30新規＞
- 出荷者を増やす目的のセミナー開催（H30新規）
「家庭菜園から始める農産物出荷セミナー」として、最近の野菜の人気品種や栽培方法、防除対策のほか、道の駅の産直に出荷する手続等についての講習会を、今後の担い手不足対策として開催。

• 現出荷者の意識向上と販売戦力を高めるためのセミナーを開催＜H30新規＞

「産直で元気になるセミナー」として、八戸市舘鼻岸壁朝市の理事長で、農家として産直にも出荷し、産直所運営にも携わる方による、利益を上げる農業経営や産直利用についての講義開催。

○冬場の品薄時の売り場づくり

• 県内産地直売施設間の商品交流実施＜H30新規＞

冬期の不足野菜の解消策として、産直とわだから仕入れた野菜を販売。

	集荷サービス 利用比較							
	件数		高齢者の利用者数		集荷額		コンテナ数	
	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30
8月	14	23	11	22	304,090	346,990	38	92
9月	14	21	14	20	120,850	274,890	38	67
10月	29	17	22	17	292,530	118,240	77	54
11月	7	10	6	8	48,920	93,370	19	29
12月	2	11	1	3	97,580	515,106	19	29
1月	7	5	6	1	33,350	54,715	19	29
2月	6	6	4	1	25,620	64,887	19	29
計	79	93	64	72	922,940	1,468,198	229	329
増減	14		8		545,258		100	
月平均	11	13	9	10	131,849	209,743	33	47

○来年度の取り組み予定

- ぐるっと隊による集荷サービスの実施（H28～継続）
- 県内産地直売施設間の商品交流実施（H30～継続）
- 高齢者や女性に優しい野菜販売台に更新（新規）

施策⑤ 高齢者など住民への宅配サービス

取組の方向性

一定のニーズがあり、今後も増加が見込まれることから、既存サービスとの棲み分けや連携を考へながら、実証実験で導入を検討する。

計画の内容

- ・ 宅配サービスの提供
- ・ 宅配サービス先の拡充調査



最終目標年度：H32年度
現在の達成度 80%

○今年度の取り組み

○宅配サービスの提供<H28~継続>

- ・ 道の駅にある商品（商品カタログ記載）を宅配（無料）
- ・ 温泉や役場ロビーで移動販売を実施（無料）
- ・ 道の駅で購入した重い荷物を自宅まで配達（無料）
- ・ 高齢者の利用者については、利用状況を把握し、見守りを実施
- ・ 宅配サービスのPR（チラシの毎戸配布、移動販売先の近隣への周知）
- ・ 社会福祉協議会の要請による、高齢者が集まる場「いきいき教室」開催時での移動販売（3地区）



《昨年度との変更点》

- ・ 効率かつ継続実施の可能性を高めるため、サービスの業務受託者を「なたねの会」から「(株)よこはまロマン創社（道の駅菜の花プラザ）」へ変更。
- ・ 道の駅営業日の全日でサービス提供可能に。
- ・ 専用携帯電話の設置により、移動中でも連絡可能に。

サービスの利用状況の比較

区分	項目(単位)	平成29年	平成30年	増減
移動販売	実施件数(件)	59	56	△3
	高齢者利用数(人)	518	384	△134
	売上額(円)	662,430	484,290	△178,140
宅配サービス	利用件数(件)	62	37	△25
	うち 高齢者の利用(件)	44	22	△22
	うち 1人暮らし(件)	22	5	△17
	うち 電話注文(件)	19	21	2
	電話注文金額(円)	31,528	137,979	106,451

○来年度の取り組み予定

- ・ 道の駅にある商品（商品カタログ記載）を宅配（継続）
- ・ 温泉や役場ロビーで移動販売を実施（継続）
- ・ 道の駅で購入した重い荷物を自宅まで配達（継続）
- ・ 高齢者の利用者については、利用状況を把握し、見守りを実施（継続）
- ・ 宅配サービスのPR（チラシの毎戸配布、移動販売先の近隣への周知）（継続）
- ・ 新規移動販売先や、日用品等販売品の検討（継続）

施策⑥ 道の駅への送迎サービス

取組の方向性

高齢者のニーズが高く、手にとって商品を選び・楽しみたいという声も多いことから、類似サービスや競合店舗と共存できる送迎サービスを構築。

計画の内容

- 送迎サービスの提供（高齢者への声かけ、見守りサービス含む）



最終目標年度：H32年度
現在の達成度 60%

○今年度の取り組み

○送迎サービスの提供

- 温泉&お買い物バスを運行<H28～継続>



◀道の駅で買い物を終えて乗り込む利用者の様子

・温泉バス利用者等への状況調査<H30新規>

- 温泉バスの利用は、10人から20人。そのうち、5名前後が道の駅利用者。
- 夏場と冬場の利用者数の増減は、ほぼ変わりなし。
- ぐるっと隊が、温泉に移動販売に来ない日は、特に利用されている。
- 購入品は、野菜や温泉で食べるおやつが購入されている。
- 本町地区の方が、バスは利用するものの、道の駅に立ち寄ることは、ほとんどない。

平成29年4月からの老人福祉センターバス運行時間が変わります！

北地区（月曜日）		本町地区（火曜日）		南地区（水曜日）	
乗降場所	時間	乗降場所	時間	乗降場所	時間
佐賀商店さん前	9:50	トレーニングセンター前	9:40	笹野和男さん宅前	9:30
有畑バス停	9:52	石崎正敏さん宅前	9:44	鳥山真人さん宅前	9:38
鶏沢バス停	9:54	旧よこはま保育所バス停	9:46	老人憩の家前	9:39
大豆田バス停	9:56	緑町バス停	9:47	小笠原猛さん宅前	9:41
二木石次郎宅前	9:58	旧農協スタンド前	9:48	ちどり町入口	9:42
檢木北バス停	10:00	新丁バス停	9:49	中吹越バス停	9:44
白浜源治さん宅前	10:01	青い森信用金庫前	9:50	吹越バス停	9:46
ふれあいセンター ㊦	10:05	新町バス停	9:51	旧南部小学校前バス停	9:47
		塚名平バス停	9:52	外井礼吉さん宅入口	9:48
		大澤商店前	10:00	旧中山キヌさん宅南側	9:50
		ふれあいセンター ㊦	10:05	入谷タケさん宅前	9:56
				向沢入口	9:58
				島山岩三郎さん宅前	10:02
				向平北バス停	10:03
ふれあいセンターから役場前	10:08	ふれあいセンターから役場前	10:24	ふれあいセンター ㊦	10:05
みちのく銀行前	10:09	みちのく銀行前	10:25		
農協前	10:12	農協前	10:26		
道の駅	10:18	道の駅	10:32		
ふれあいセンター ㊦	10:22	ふれあいセンター ㊦	10:36		

★ふれあいセンターからの移動で上記の場所へ乗降りができます。 お問い合わせ先
★町内での用事や、買い物をして温泉利用も可能になりました。 よこはま温泉 TEL78-6531
★編りは、全地区ふれあいセンター（13：45出発）になります。 役場健康福祉課福祉G TEL78-2111（内線221）

○来年度の取り組み予定

- 温泉&お買い物バス運行【継続】
- 温泉及びバス運行についての周知【継続】
- 県内道の駅フェアイベント時のバス運行検討【新規】
- （仮称）横浜町保険・児童センター建設後のバス運行計画の検討。【新規】

施策⑦ 災害時の受け入れ体制づくり

取組の方向性

- 道の駅エリア内の各施設において災害時の受入を想定して、必要な防災機能を確保する。
- 避難生活に対応できる備蓄を行う。
- 災害時に防災拠点としての機能できるよう、各施設間の連絡体制・受け入れ体制を構築する。

計画の内容

- 災害時の役割分担と防災機能強化
- 食料及び生活必需品等の備蓄
- 連絡体制等の構築



○今年度(H30)の取り組み

- 詳細設計
 - ・ 防災除雪ステーション
 - ・ 防災備蓄倉庫 など
- 用地買収

○来年度(H31)の取り組み予定

○防災機能の強化

- 施設整備
 - ・ 防災除雪ステーション
 - ・ 防災備蓄倉庫
- 詳細設計
 - ・ 休憩施設及びトイレ など
- 用地買収
- 一部造成工事に着手

○連絡体制等の構築

- 地域防災計画見直しのため、引き続き横浜町など関係機関との調整

事業進捗率
8.5%
(H30末見込)

事業内容

道の駅よこはまエリア地方創生拠点のハード整備イメージ



○事業の概要

- ① 駐車場拡幅
- ② 休憩施設、トイレ
- ③ 防災除雪ステーション
- ④ 非常用電源設備
- ⑤ 防災備蓄倉庫

取組の方向性

- ・ 災害時に地域が適切な対応ができるよう、防災訓練や意識啓発を行う。

計画の内容

- ・ 道の駅エリアを活用した防災訓練
- ・ 防災に関する意識啓発



最終目標年度：H32年度
現在の達成度 70%

○今年度の取り組み

○防災に関する意識啓発

・ 横浜町総合防災訓練を実施〈継続〉

役場庁舎にて、初動訓練と、大豆田地区（旧大豆田小学校）にて町民参加型訓練を実施。
同日、心肺蘇生とAEDの使用方法の職員対象講習会を開催。

【初動訓練】



◀ 役場職員・消防署・消防団の初動訓練

・ 道の駅よこはまにて防災訓練を実施〈継続〉

横浜消防署から指導を仰ぎ、社員の初動訓練を実施。

避難誘導訓練▶



【町民参加型訓練】



▲ 心肺蘇生・AED使用講習会



▲ 吹き出し訓練

○来年度の取り組み予定

- ・ 横浜町総合防災訓練の実施〈継続〉
- ・ 道の駅よこはま防災訓練を実施〈継続〉
- ・ 道の駅エリアを活用した防災訓練についての協議〈新規〉